

日本山岳写真協会 選抜展「それぞれの山」

日 程／平成27年2月5日(木)～11日(水) 会 場／ポートレートギャラリー

1	コバイケイソウ咲く	池 田 栄 子
<p>高山の貴婦人と呼ばれるコバイケイソウは数年に一度、群生をなし咲き誇る。 今年には当たり年の兆しとの情報、胸の高まりを抑えつつ山路を急ぐ。そこには、峰々に抱かれ、爽な風と戯れるコバイケイソウの容姿がそこに・・・・・・。</p>		
2	春の兆し	石 塚 茂
<p>深い雪に閉ざされていた尾瀬ヶ原の春は遅いが、4月ともなると雪溶けはじめ入山しやすくなる。 この時期の尾瀬ヶ原は、雪原が多く残り、池塘や川の中にはかわいい水芭蕉が咲きはじめる。</p>		
3	天界	伊 原 明 弘
<p>驕る(おごる)者達を戒めるかのごとく、連日連夜ごうごうと荒れ狂う厳冬の雪稜。狭小と無力をいやと言うほど思いしらされる。でも敬虔(けいけん)に、従順にじっと耐えた者だけに天界の神々は、ほんの少し微笑んでくれる。その一瞬の荘厳で崇高(すうこう)な山々の美しさよ・・・。そんな神々からの一瞬の恩恵を授かりたいがためにあえて酷寒(こっかん)の森林限界を越える。だが、ここから先は足を踏み込むことを躊躇(ちゅうちよ)する、まさに、神々の領域。</p>		
4	八ヶ岳の秋	岡 孝 雄
<p>紅葉が少ないと思われている八ヶ岳。梅雨時期の花と山岳を合わせた撮影行時、チョウノスケソウの硬く光沢の葉ならばきつと赤くなるだろうと思った。 何度目かで赤い岩峰を撮影できた。中級山岳、八ヶ岳の秋は色彩豊かだ。</p>		
5	雪解け潤う	上 ヶ 平 裕 彦
<p>人の背丈をも越える分厚い雪板が割れ、命を育む水が音を立て走りだす。黒々した茂みから勢いよく芽吹く新緑。 北アルプスの大自然は、遅い春の目覚めを一気に取り戻すかのように夏を目指して駆け抜ける。梅雨明け直前は舞台準備の総仕上げ。わずかな雪溪のみが厳しい冬の名残りを記すものとなる。</p>		
6	北岳のお花畑から	三 枝 仁 也
<p>ユネスコパークに指定された南アルプス、主峰の北岳をはじめとする山麓は、貴重な動植物の宝庫である。 夏のメインは登山道から見えるお花畑であり、色鮮やかに咲き誇る花は、疲れを一気に忘れさせてくれる。梅雨明け、一斉に咲き誇る花々が、撮影する私を待っていたかのように ワクワクさせてくれた盛夏の一時であった。</p>		
7	厳冬の横岳	瀬 戸 口 隆 司
<p>ここ数年、赤岳天望荘での年越しは、吹雪に見舞われ通しであった。小屋で写真仲間の語らいも、一年一度の楽しみではあるが、撮影日和に勝るものはない。 昨年は幸運にも十年ぶりに、本来の八ヶ岳に相応しく素晴らしいシーンに出会うことが出来た。やはり、写真は我慢第一である。</p>		
8	風が舞う	中 山 眞 吾
<p>山の天気は変わりやすく、綺麗な景色に出会うことが少ない。まして烈風や飛雪、そして身を切るような寒さは過酷であり、3000m近い標高での荒天は想像を絶する。 しかし、何度か足を運べば撮影チャンスがやってくる。雲に覆われていた稜線が見えてきた。夢中でカメラを取り出す、感動の瞬間である。</p>		
9	霧氷開華 赤城の山に冬華咲く	名 取 洋
<p>上州赤城山。師走12月、最も霧氷の華が咲く時期である。それは、大沼が完全結氷しないため、霧氷に必要な水分を補給しているからだと言われている。 撮影ポイントは地蔵岳。黒檜山を背景に全山白く化粧を施す。朝日に輝き赤く染まる木々。眼下に小沼を従えて、関東平野を一望。この時期の風物詩「霧氷」は美しく輝いていた。</p>		
10	晩秋の鏡平	畑 島 淳
<p>鏡平山荘が小屋閉めの頃、紅葉が終わり登山者もまばらになる。小屋仕舞い、作業の音が侘しく聞こえる。 紅葉の葉を落としたナナカマドやダケカンバ等が、すぐに来る冬に備えている様に思える。そんな虚しさの鏡平。</p>		
11	春山の想い出	松 原 貴 代 司
<p>稜線近くの山小屋は、4月下旬から営業を始める。私は例年、小屋開けを心待ちにし、別山乗越を目指す。 春山の様相は、厳冬期の積雪量や直前の気象状況に依り毎年異なり私を迎えてくれる。春山はゆったりした交響曲の様な調べも楽しませてくれたし、稜線では繊細な雪面模様やこの時期としては4～5年ぶりの岩氷も見せてくれた。</p>		
12	春めく室堂平	道 健 一
<p>夏日になった大町から室堂平に着くと、そこはまだ深い雪に覆われた別世界だった。 それでも、日差しはまぶしく、明らかに春のものである。気温は、朝夕冷え込む、昼間は汗ばむと言う具合で、冬と春と初夏が混在している。そんな、室堂平の様子を切り取った。</p>		
13	春山の雪面 燧ヶ岳再訪	緑 川 邦 雄
<p>尾瀬の美しさに魅せられ、春から秋まで、幾度となく通う。 シーズン最後の日、朝もやの向こうに爽やかに佇む燧ヶ岳に感動し、尾瀬ヶ原を後に。 春まだ浅く、残雪と氷に覆われた尾瀬沼の向こうに燧ヶ岳の勇姿が。夕刻、天空と沼をほのかに赤く染めながら静かに太陽が沈んで行く。</p>		